

「もっと世界を視野に」

フランスについて話す瀬古さん



瀬古さん 体験記交え伝える

新宮市立城南中学校は17日、同市立王子ヶ浜小学校の瀬古陽教諭を招き、職業講話を実施。3年生54人は、瀬古さん自身のフランスの体験記を

交えた講話「海外で働く日本人」様々(さまざま)な「日本代表」を目指して」を聞いた。はじめに、パワーポイントで写真や動画、地図を見せながら、高速道路やエッフェル塔、ノートルダム寺院、モンサンミッシェル、ヴェルサイユ宮殿、パリの街並みなどについて、フランスの歴史や文化、規制を交えながら説明。そのほか、パンやスイーツ、ワイン、シャンパン、国民性について自身の体験を入れながら語った。

フランスはドイツなどとともに、EUの中心国であり、美術や音楽、ファッションについても優れている。瀬古さんは、フランスで働くには①語学力②高い知識と専門性③対応力④プレゼンテーション能力が必要とし、「フランスで働く日本人は、世界を舞台に働く日本人だ」と表現した。

最後に「大学の時に初めて海外の話聞いたが、もし中・高校生の時に聞いていたら、少し変わっていたと思う。そこから小・中学生に伝えられる人になりたいと思い、フランスへ行き、習慣や職などについてたくさん知った。それを知ってから日本で働いても、決して無駄にはならない。みんなは時間も知識もあるの、日本でとどまらず海外を感じる機会を増やし、他国の習慣や文化、景色などを感じて大人になってほしい。世界は私たちが思っている以上に面白い」と生徒に

呼びかけ、終了した。生徒会の天野川美緒さんは「海外は事件などから、怖いイメージがあったが、話を聞いて楽しそう

な印象を受けた。行ってみたいと感じた」と笑顔。同じく橋本空羽くんは「今日は話を聞いて海外に興味を持つようになり、役立つことができた」と思った。国のために働く国際公務員に興味を持ち、職業について考えた」と話した。

(香川真夕)

城南中で職業講話



海外について考える生徒